

水温情報

第1号

その1

1998年9月

沖縄県水産試験場

901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号

電話 098-994-3593・3597

ファクシミリ 098-995-2357

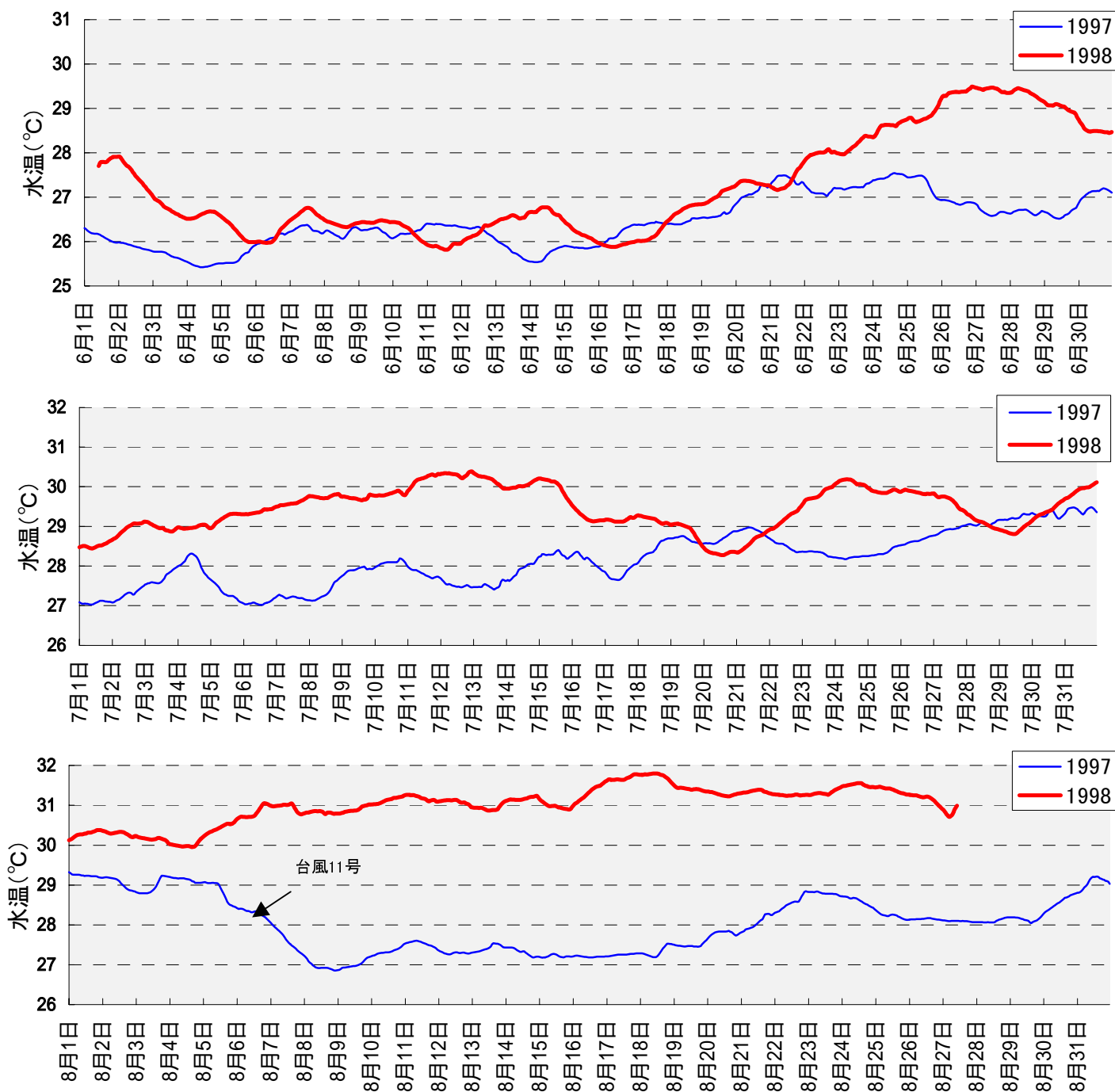
ホームページ

<http://www.fish.pref.okinawa.jp>

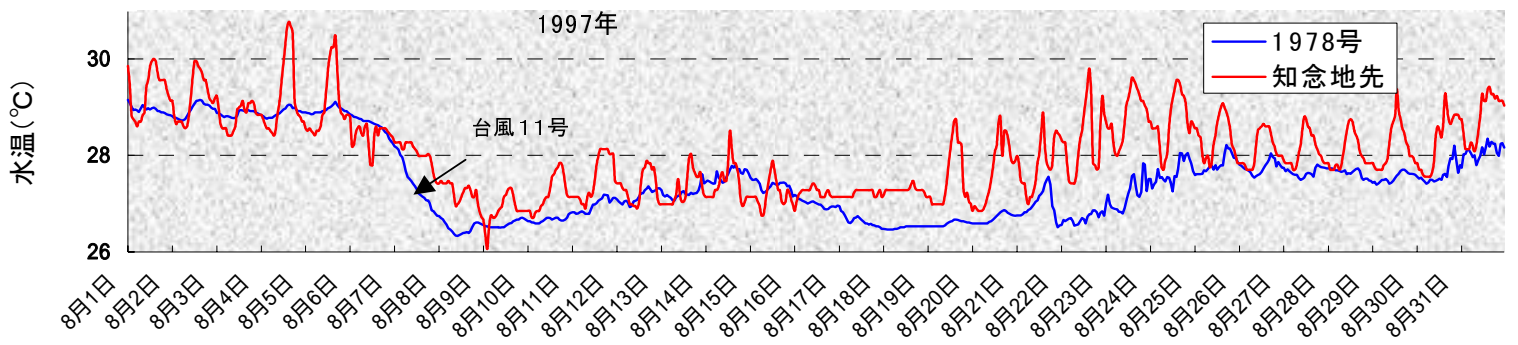
今年の夏は台風が少なく、沖縄の沿岸域、沖合域は高水温が続きました。各地でサンゴの白化現象が報告されています。サンゴ以外の水産生物への影響も心配されます。また、マグロのヤケも例年より多いようです。

下のグラフは、知念村地先のモズク養殖場に設置した水温計の測定結果です（24時間移動平均値）。水深は約4mです。今年は、昨年と比べて、6月下旬以降水温が高く推移しました。特に8月は30℃以上が続き、昨年は台風11号、13号の接近で水温が下がったのに対し、2-4℃高くなりました。

知念村地先モズク養殖場 MDS水温計測定結果



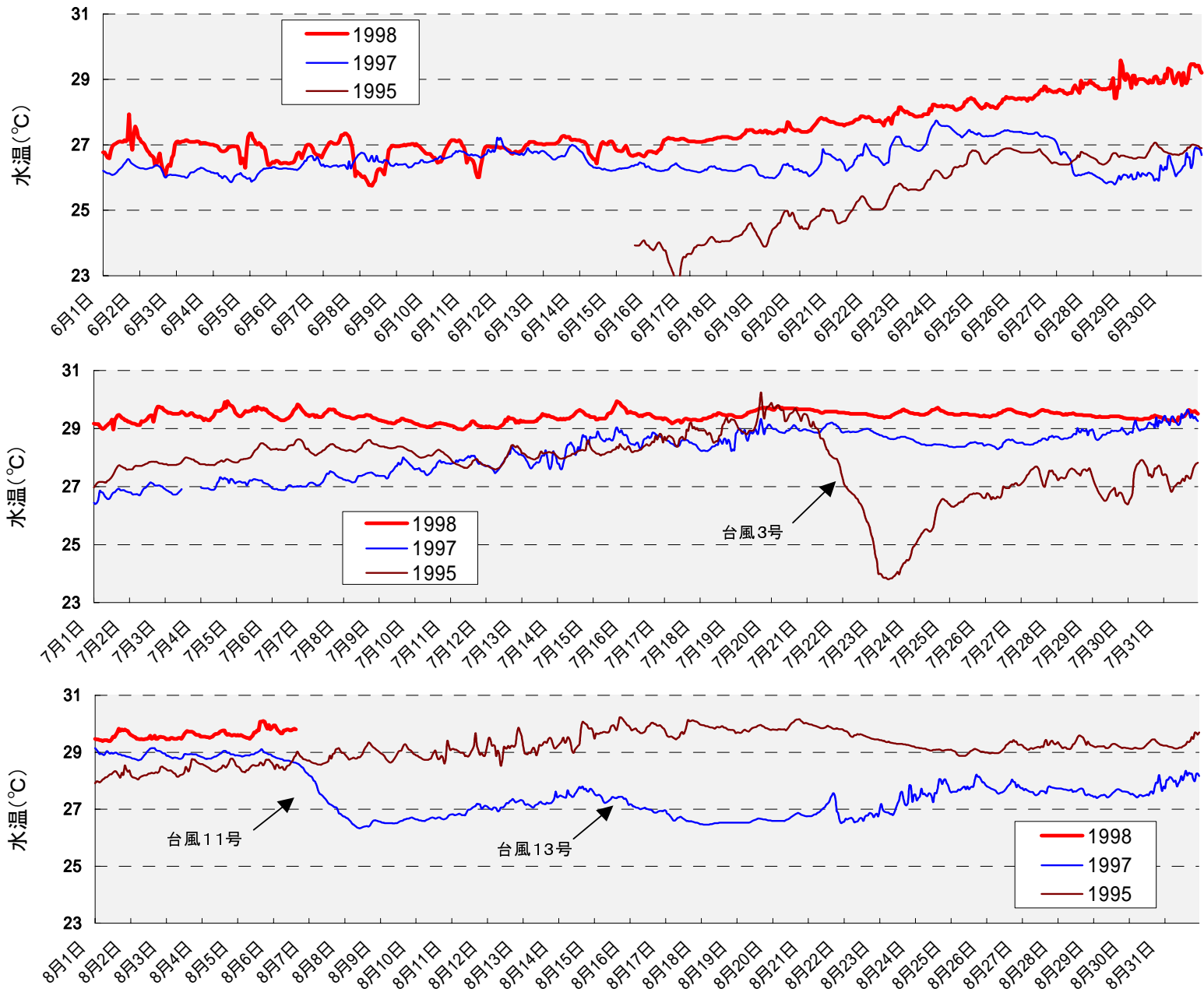
その2



上の図は、1997年8月の知念地先モズク養殖場（赤い線）と知念沖耐久性浮魚礁（ニライ1号：N26°，E128°、青い線）の水温の比較です。ともに1時間平均値です。ニライ1号の水温計の水深は4mです。知念地先のほうが1日の間の変化が激しいですが、変化の傾向はサンゴ礁内とその沖合域で似ています。8月6日に台風11号が接近した時は、両方とも水温が下がりました。

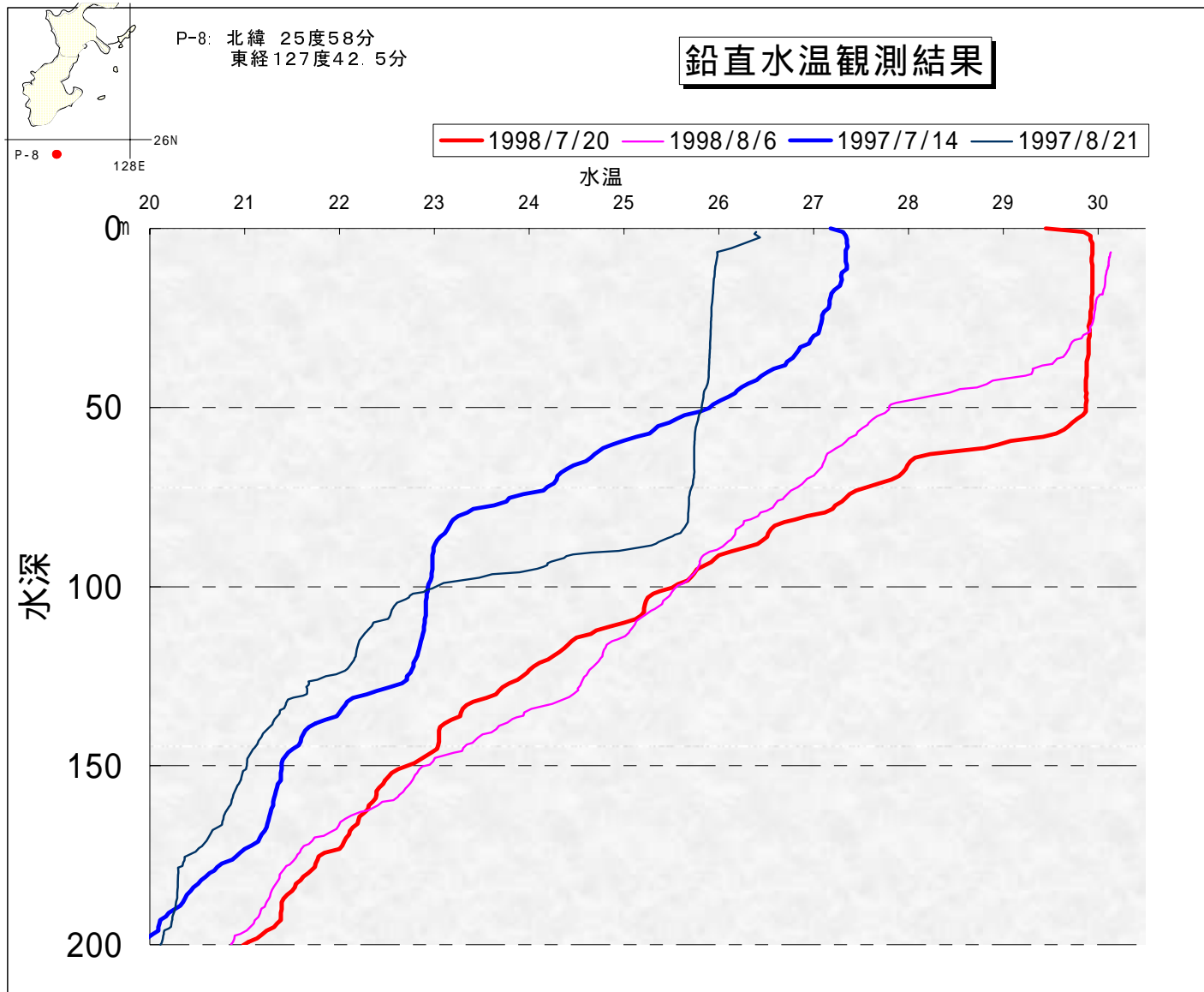
下の図は、1995年、1997年、1998年6月～8月のニライ1号水温測定結果です。やはり、台風が接近すると水温が急に下がります。今年は6月下旬からずっと高水温が続いています。

ニライ1号 水温測定結果

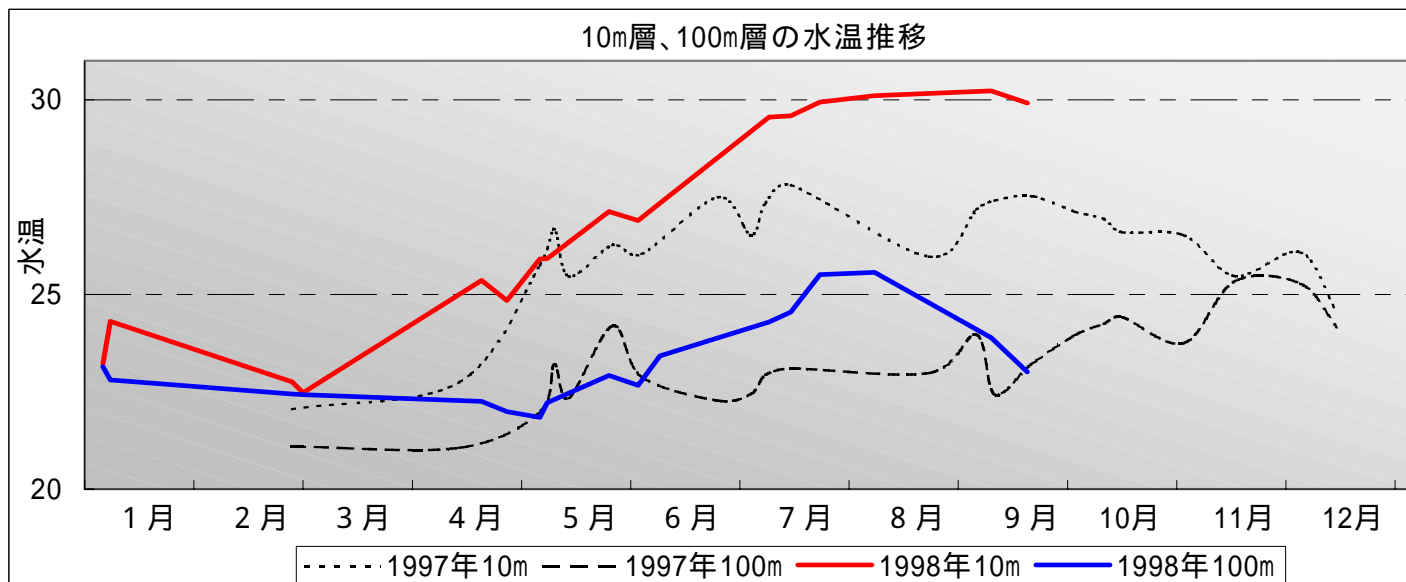


その3

沖縄島南の観測点 P - 8 で鉛直方向の水温を観測してます。下の図は1997年と1998年の7月、8月の観測結果を比べたものです。1998年は200m層まで水温が高くなってます。特に、7月20日は50m層まで水温が30 近くありました。（この図には示していませんが、9月の中旬では、50m以深の水温は下がってきましたが、それより浅い層は30 近くありました。）



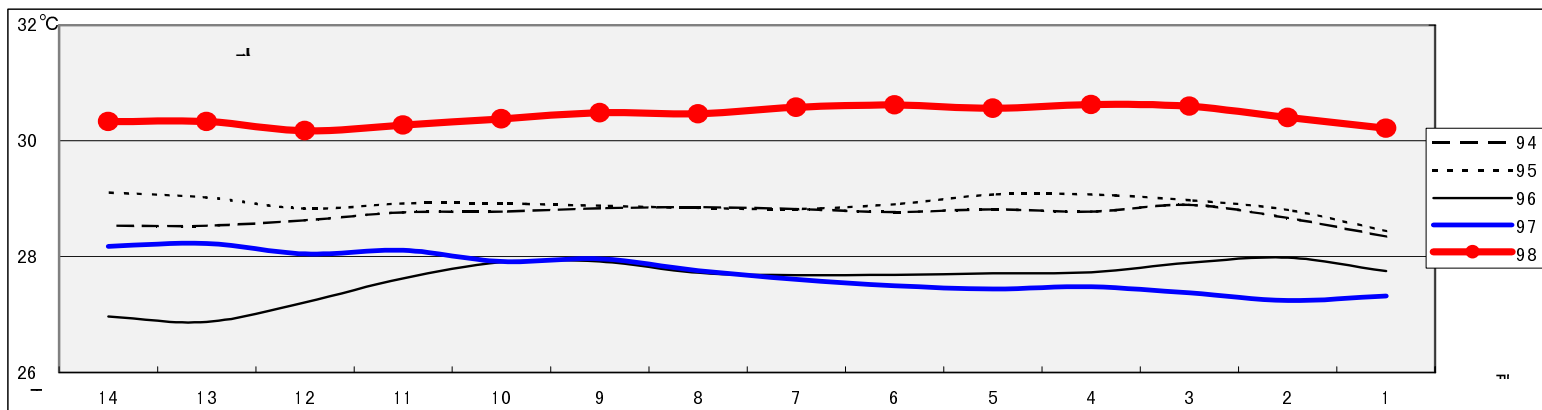
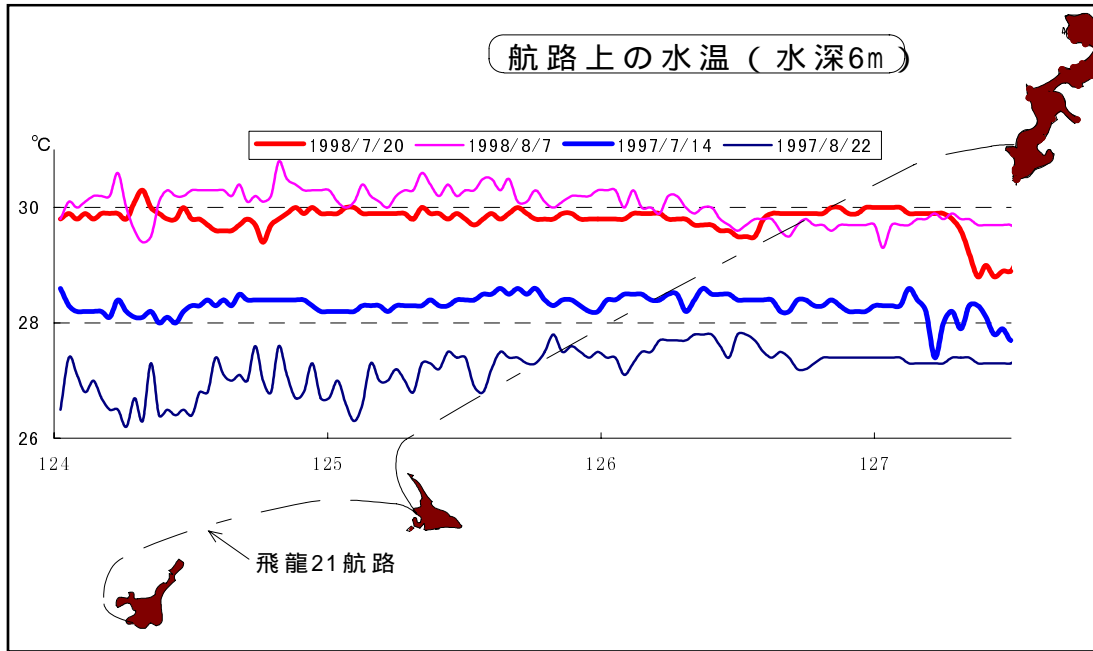
下の図は、1997年と1998年の P - 8 における10m層、100m層の水温推移です。1998年は、1997年と比べると7月、8月は水温が高く推移しました。9月に入って、100m層の水温は下がってきましたが、10m層は依然高いままです。



その4

下の図は、那覇 - 先島間フェリー「飛龍21」(有村産業)の船底部に取りつけた水温計の観測結果です。P - 8で鉛直水温を測定した日の那覇から石垣までの水深6m水温を示しています。1998年7,8月の表層水温は、1997年と比較して、水平的にも高くなっています。

中央の図は、那覇から石垣までを14の区域に分け、1994年～1998年の8月(月約8航海)の平均値を示しています。1998年は、過去4年と比べて、水温が高くなっています。



下の図は、沖縄島南東の6つの観測点における10m層の水温(赤い線)と水温平年値(青い線)の推移です。昨年の夏は、水温が平年値よりかなり低かったのに対し、今年の夏はかなり高くなっています。

